

市場情報収集解析システムの開発（要約）

本 永 文 彦

目的および内容

沖縄県内の漁業組合では近年OA機器を導入し業務の合理化が進められている。販売業務にオフコンを使用し、煩雑なために敬遠されがちな漁獲統計も同時に行なわれている。そこで昨年度は、今後オフコンを導入する漁業組合において販売業務における市場仕切書入力に必要な漁業種類と魚種コードを作成した（本永、1988）。

1989年1月から県内主要な漁業組合における全ての漁業種別漁獲量と漁獲金額、水揚げ隻数などの市場情報を収集している。現在こうして集められた資料を迅速に解析するシステムの開発を進めており、本報告ではその作業経過の概要を紹介する。

なお、沖縄県総務部情報管理課の上原幸雄氏、沖縄県漁業振興基金の知念良廣氏、沖縄富士通システムエンジニアリング関西平隆史氏には、今回のシステム開発にあたり多くの便宜を計るとともに激励、協力を受けている。また各漁協の市場（セリ）担当職員の方々には資料の収集、作成に多くの協力をいただいた。今回進めている市場情報収集解析システムの開発は、これらの方々の協力なしでは行えないものである。厚くお礼申し上げるとともに今後もシステム開発に向けて助力をお願いしたい。

作業経過

1) 1989年1月以降、オフコンを所有する漁業組合からは市場仕切書データの保存されたFDを収集し、漁業組合数は14である（1989年12月現在、表1）。

2) 得られた漁獲資料は、沖縄県庁内情報管理課の大型電算機によって集計し、データの保存を行なう。開発言語はSAS（統計ソフト）を用いている。現在プログラム開発中であり、詳細は次年度以降に報告する。

3) オフコンを所有しない組合については、そのうち9漁協を水試が集計している（表1）。データの構成は日付、漁業者コード、所属漁協、漁法、漁場（一部）、漁獲物の種類（方言名）、数量、単価となっており、1)のデータとほぼ共通項目である。

4) 水試での集計はパソコンを使用している。日々の入力作業の他、漁業組合への集計報告のためのプログラムを開発しており、詳細は次年度以降に報告する。

参考文献

本永文彦（1988） 市場情報収集解析システムの開発（漁業種類、魚種コードの作成）、昭和62年度沖縄県水産試験場事業報告書、91-108。

表 1 市場情報を収集している漁業組合

オフコン所有	オフコン所有せず 水試で集計
1. 国頭	1. 本部（かつお船）
2. 名護	2. 読谷
3. 金武	3. 与那城
4. 勝連	4. 沖縄市
5. 糸満	5. 佐敷中城
6. 港川	6. 与那原
7. 知念	7. 伊良部（曳縄、かつお船）
8. 恩納	8. 伊江島（とびうお、定置）
9. 石川	9. 八重山（曳縄、とびうお）
10. 久米島	
11. 平良市	
12. 県魚連	
13. 那覇沿岸	
14. 与那国	
15. 近海鮪（1989年度内実施）	
16. 与那城（1990年度予定）	